

中学生だからこそ、読んでほしい。

「考え、議論する」を追求した教材

「もう子供じゃない。」

生徒たちはそう言うかもしれないけれど、
やっぱりまだ大人ではないのが中学生。

でも、時折見せる真剣な眼差しは、

「いつまでも子供ではいられない」
という訴えでもあるのでしよう。

どんな大人になりたいのか。

自分の未来をどう創っていくのか。

これからの生き方を考える中学生の
心の求めに応える教材を揃えました。

ポイント1

感動教材・人物教材
悩みのつきない中学生にこそ
出会ってほしい物語がある

ポイント2

いじめを許さない
いじめ問題を深く見つめ、
真剣に向き合うための教材

ポイント3

現代的な課題
これから生きる生徒たちに
考えてほしい教材

ポイント4

多様な指導方法
自分と向き合い、考える
生徒の心が動き出す

実話が胸を打つ。 魅力あふれる人物の生き方から学ぶ。

人物

栄光の裏にある彼らの人知れぬ努力や苦悩する姿、幼少期の体験などから、生徒が人物に感じ、「人間として生きるすばらしさ」を感じ取れるよう配慮しました。



「私は、チームを強くするために陰で働きます。」
1964年東京オリンピック女子バレーボールチーム



▲1年⑩「終わりのなき挑戦—成田 真由美—」

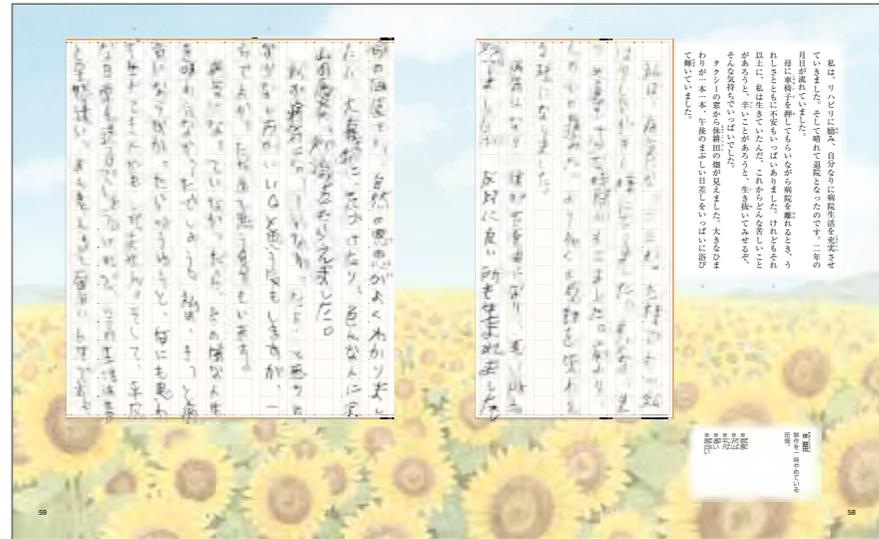
「挑戦に終わりはない。」 成田 真由美

名作
感動

読み継がれてきた名作や、 胸にしみる物語の数々。

長く読み継がれてきた名作や、大人も思わずほろりとするような胸にしみる物語の数々。これまでの多くの実践に裏打ちされた名作教材や感動教材を大切にしました。

「なんでこんな美しいところから
自分はいなくなろうとして
いるんだろう。」



▲3年⑪「ひまわり」
ある日、突然障がい者になってしまった中学生の麻衣さん。希望を失った彼女を救ったのは、輝かんばかりの自然の美しさでした。



▲3年⑫「虹の国—ネルソン・マンデラ—」

1995年、ラグビー・ワールドカップ。スポーツが、心と心をつないだ。



▲3年⑬「ぶれない心—松井 秀喜—」

努力できることが才能である。



▲1年⑭「美しい母の顔」

母の顔にあるやけど。今では私の誇りです。すっと毛嫌いしてきた母のやけど。その真実に涙が止まらない。



▲2年⑮「ジョイス」
前代未聞の大誤審から一転……。全米が涙した感動の実話。その拍手はやがて、二人を包むぬくもりとなって、空に響いていった。

「人間っていいな」心揺さぶる教材を精選しました。

しない、加わらない、見過ごさない。

特集

中学校では「人間としての生き方」について考えを深めるために、道徳科で学ぶさまざまな道徳的価値との関わりで「いじめ」について考えます。

特集 道徳での学びから考える

「いじめ」をしない、加わらない、見過ごさない。自分にも、他の誰かにもいじめを許さない。そんな、あなたの強い心を大切にしていきたい。

道徳の内容に示された4つの視点から、いじめについて考えます。たとえば1年生では「自律」との関わり、「思いやり」との関わり、「家族」との関わり、「生命」との関わりで、いじめを考えます。

◀ 全学年本冊巻末
「いじめを許さない 私たちの心」

教材・資料

その残酷さを、決して許さない。

各学年に「いじめ」防止に関わる読み物教材を掲載するとともに、さらに多面的・多角的に考えるための資料もあわせて掲載しています。

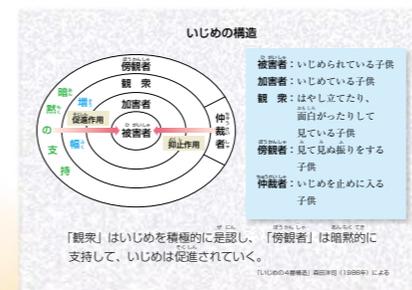
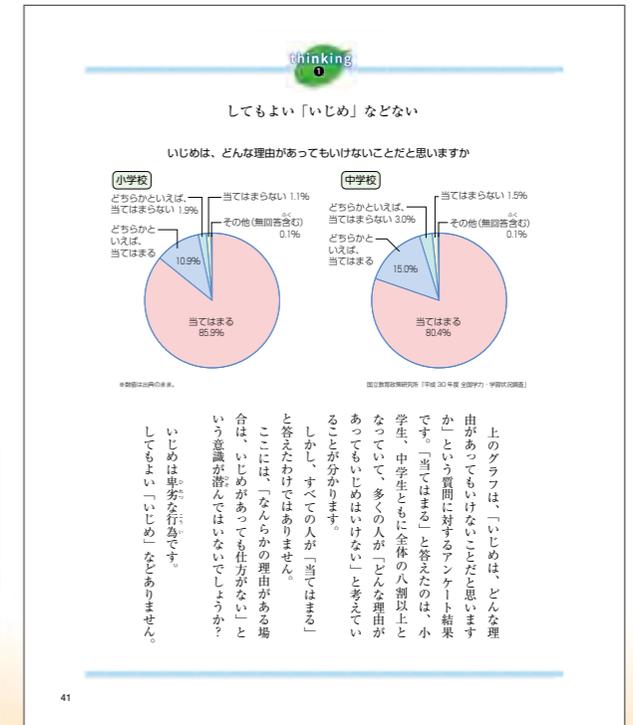
教材 心で感じる

幼なじみがいじめられているのが許せない。でも止めることもできないでいる。だけど……。

▲ 1年 ① [ヨシト]

資料 さまざまな視点から考える

◀ 1年別冊 p.13
「いじめ撲滅宣言」



▲ 2年別冊 p.13 「いじめの構造」

▲ 1年 thinking ① 「してもよい『いじめ』などない」

「いじめ」問題と道徳科との関連イメージ



いじめを許さない心を育む。

私たちが、考えなければいけない課題がある。

今日的な課題を取り上げた教材については、生徒たちと年代の近い主人公や筆者の作品を積極的に掲載し、共感しながら考えられるようにしています。

インクルーシブ教育

1年④「ある日のバッテリーボックス」

ある小学校5年生の学級での実話です。クラスに小児まひを患った児童O君がいました。歩行に困難のあるO君に、先生はできるだけの支援をしていました。しかし、体育の時間だけは補助的な役割ばかりで、O君もつまらなそうです。そんな時、先生がある土曜の午後に見たものは……。



人権・情報モラル

2年⑨「君、想像したことある？」

子役タレントだった春名風花さんが、小学校6年生の時につづった「いじめ」に関する文章です。インターネット上での匿名の投稿で傷つけられた体験などを通して、同年代の生徒たちにメッセージを投げかけます。



現代的な課題

大人だけの問題ではない。ほかの誰かの問題でもない。

急激な社会の変化に伴い、新しい課題が数多く生じている現代社会。持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな角度から考えられるよう配慮しました。

共生 自然と生きる。共に生きる。

北海道釧路湿原野生生物保護センターで、野生の猛禽類を保護している齊藤慶輔さんの文章です。今なお解決していない現代的課題を取り上げています。



2年⑥ 「野生の猛禽を守るために」



防災

3年⑫「千年先のふるさとへ」

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県女川町。震災からほどなく女川町立女川中学校に新入生が入ってきました。現実と向き合ううちにわきあがる思い。「この町は流されてなんかいない。」今の自分たちが女川町のためにできることは何か、生徒は考え始めました……。



これからの時代を創っていくために。

視野を広げて、角度を変えて



▲ 2年 thinking① 「海に住む人 森に住む人」



▲ 全学年 持続可能な社会に関する特集

補助資料で学びを深めたり、広げたりすることができます。

映像でさらに充実

指導者用デジタル教科書(教材)には、内容理解を助ける動画コンテンツが収録されているので、安心して授業に臨むことができます。



体験的な学習を促す教材

役割演技や動作化、追体験など、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的価値についてより深く考えられる教材を「体験的な学習を促す教材」として、積極的に掲載しています。

14 島耕作 ある朝の出来事

弘兼義史さんの作品「課長・島耕作」に、次のような話があります。

朝の通勤ラッシュの車内、老婦人が腰に座るようなバッグをぶら下げ、立ちたまさ苦しそうに歩いていて、彼女の前の座席には五十がらのサラリーマンが腰を下ろし、平然と新聞を広げて読んでいた。

老婦人の揺れで老婦人が彼にぶつかり、すみませんと謝っても、ぶすっとして応答しない。男の無神経さに業を煮やした島耕作が言った。

「すみませんが、こちらのおばあさんが少し揺れてあげられないでしょうか？」

「あ、こりやしません。気がつかかたんです……。」と、当然、そう言って座席に立ち上がると思ったところ、男は、

「冗談じゃない。疲れているのはこの老婦人だけじゃない。私だって疲れているんだ……私は昨日からずっと仕事で二時間しか寝ていないんだ。人の事情も知らんべ、勝手なことを言わんべくね」と反論してきた。怒った島耕作は、

「そんなことは知ったことじゃないです。この満員電車の中で、のうのうと新聞を広げ、読んでいるくらい元気があるのなら、席を代わってあげてもいいんじゃないかと思っただけですよ。」と言い返した。すると、

「君！私ね。席をとるために、始発駅のホームで二十分も立って並んだんです。私は座る権利があるんだ。そやうして、やっと手に入れた席を、たつた今更ってきたこの人になんで譲らなきゃならないんだ」と、男、

「権利とか、そやういふ問題じゃないでしょう！要するに、あなたの気持ちのこを言っているんですよ。」

島耕作はますますキレたくなって、

「この話は、このあと、近くの人を老婦人に席を譲って一件落着くわけですが、あなたはどう思いますか、次の意見と比べてみてください。」




12ページ

朝の満員電車。
島耕作は立っているおばあさんを見かねて、あるサラリーマンに席を譲ってくれるよう頼みます。しかし、言い合いになってしまいます。

1年14「島耕作 ある朝の出来事」

指導方法

問題解決的な学習を促す教材

「道徳的価値」に根差した問題を生徒がを見つけ、多面的・多角的に考えながら話し合いを通じて課題を追究したり、自分なりに道徳的価値のよさを理解し、発展させていける教材を「問題解決的な学習を促す教材」として、数多く掲載しています。

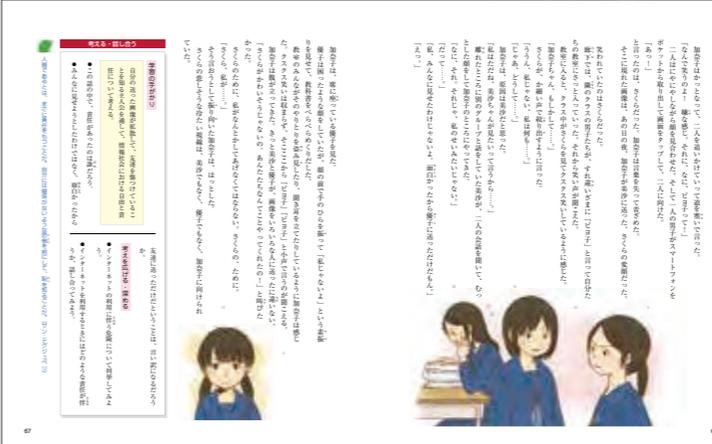
14 加奈子

加奈子は、友達の美沙に送ったさくらの「変顔」写真。気づけば学校中に広まって、みんながさくらを笑っていて……。

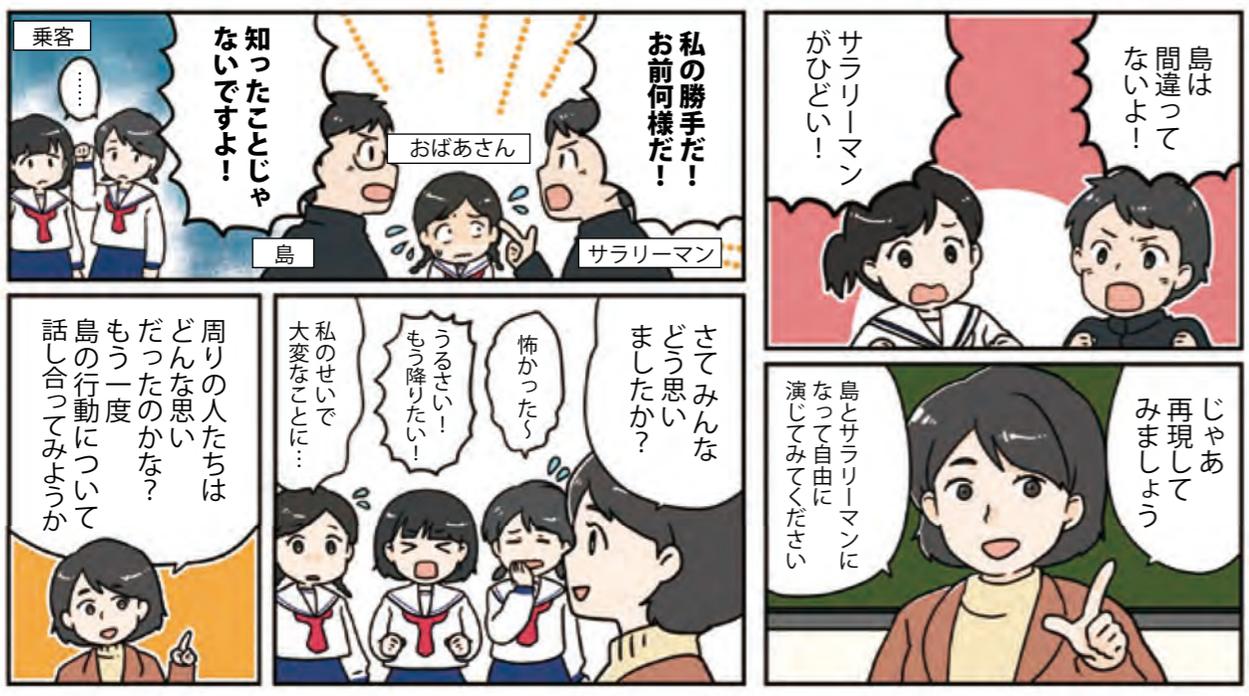



加奈子が友達の美沙に送ったさくらの「変顔」写真。
気づけば学校中に広まって、みんながさくらを笑っていて……。

3年14「ピヨ子」



多様な指導方法を取り入れた授業を。



乗客

おばあさん

島

サラリーマン

私の勝手だ！
お前何様だ！

島は間違ってるよ！

サラリーマンがひどい！

じゃあ再現してみましよう

島とサラリーマンになつて自由に演じてみてください

さてみんなどう思いましたか？

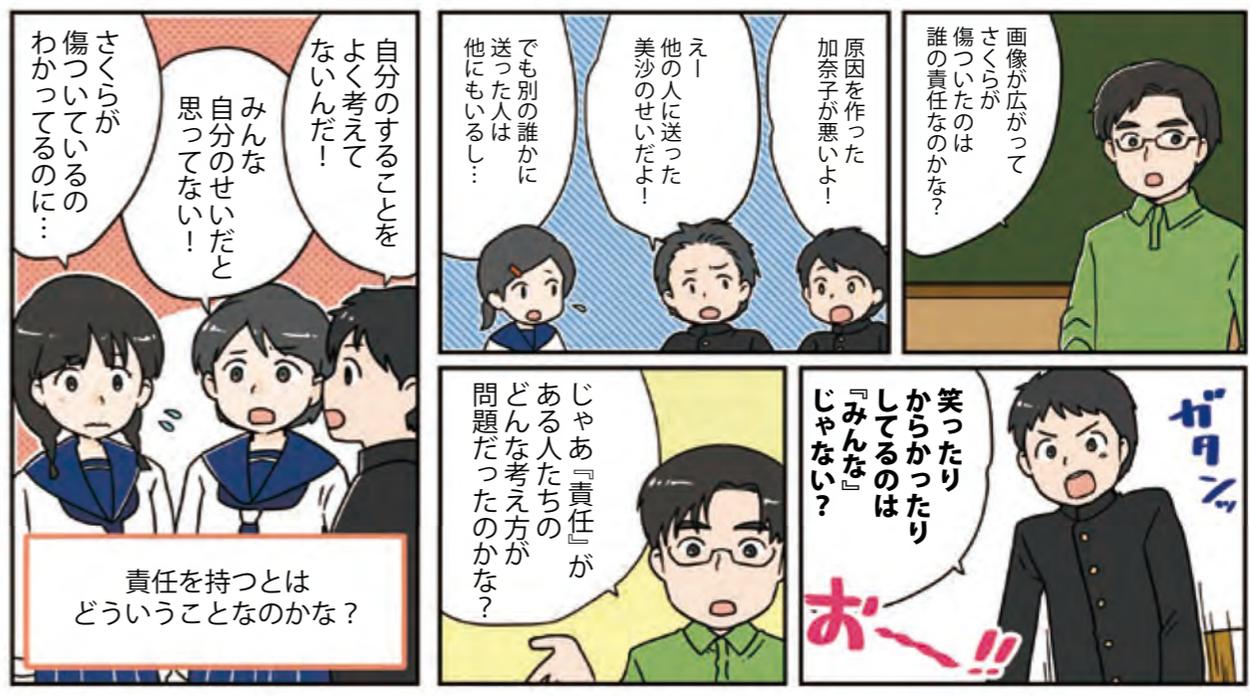
怖かった

もう降りたい！

私のせいで大変なこと……

周りの人たちはどんな思いだったのかな？

島の行動について話し合ってみようか



自分のすることをよく考えてないんだ！

みんな自分のせいだと思ってる！

さくらが傷ついているのわかっているのに……

責任を持つとはどういうことなのかな？

原因を作った加奈子が悪いよ！

えー他の人に送った美沙のせいだよ！

でも別の誰かに送った人は他にもいるし……

画像が広がってさくらが傷ついたら誰の責任なのかな？

笑ったりからかったりしてるのは『みんな』じゃない？

「みんな」が

じゃあ『責任』がある人たちのどんな考え方が問題だったのかな？